

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 JAPAN

里見八犬傳 第三輯 卷一

~13
3416
11



全五冊

書肆

山青堂

梓

田中月人
八犬傳
第一二輯

曲亭

馬琴

あいき

桺川

重信画枚野

行善院

八犬傳第三集叙



門前有狂狗。其酒不沽。而主人不曉。猶且恨酒之不沽。痴情若是者。謂之衆人。衆人有清濁。猶酒有醇與醕也。而清者。其味淡薄。雖醉易醒。濁者。其味甘美。而酩酊矣。奚思。今者之衆。懼後者之寡也。是故瞿曇氏說法。以為有地獄果天堂樂。於是不思後者懼矣。又何貴耳者之衆。不賤目者之寡也。是故南華子齊物論。以欲禁爭訟。於是

貴耳賤目者愧矣。然若彼寂滅之教媚者衆。悟者弥寡矣。宣其媚者口誦經而不能釋其義。其迷者心禱利益而不知所以欲之。凡如之之禪兜。雖度無有其功。昔者震旦有鳥髮善智識。推因辨果誘衆生以俗談醒之。以勸懲其意精巧。其文奇絕。乃方便為經。寓言為緯。是以其美如錦繡。其甘如飴蜜。蒙昧蟻附。不能去焉。既而所_レ有之煩惱化為屎溺。遂解脫糞門。則不覺到漿。

善之域。暫時為無垢之人云。不亦奇乎哉。余自少愆事戲墨然。狗才追馬尾。老於間巷。唯於其勤懲。每編不讓古人。敢欲使婦幼到漿善之域。嘗_テ著八犬傳。亦其一書也。今嗣其編。三一而刻。且成。因題數行於簡端。嗚呼狗兒佛性。以無為字眼人。則愛媚掉其尾。我則懼悞吠帝。堯冀為瞽者。猶煩惱狗以閑。一條迷路。聞者幸勿咎其無根。

文政元年九月盡日

蓑笠漁隱



南總里見八大傳第三輯總目錄

卷之壹

第二十一回

額藏間諜全信乃

犬塚懷舊觀青梅

同卷

第二十二回

濱路竊悼親族

糠助病思其子

卷之貳

第二十三回

犬塚義諾遺託

網乾漫賣歌曲

同卷

第二十四回

軍木媒說莊官

幕六偽洩神宮

含情濱路訟憂苦

告奸額藏還主家

卷之叁

第二十五回

弄權墨官促婚夕

示教頑父羞再醮

左母二郎夜豪奪新人

寂寘道人見火定圓塚

同卷

第二十八回

罵仇濱路死節

認族忠與譖故

卷之五

第二十九回

相換雙玉額藏識類

相遇兩敵義奴報怨

同卷

第三十回

芳流閣上信乃血戰

坂東河原見八顯勇

統計三十回其第一回迄第二十回既錄于前板兩輯

犬山道節

忠興

田單破燕之日
火燎平原
阿難示寂之年
煙和兩杆



犬飼見八信道

人々、見一

ヨノ

破もあうぢいはぬくよせん
綱さうねえびとくふはり
おぐ味移き絶

莊客棟助



大塚墓六



出像二頁淺倉伊八刻

殿上宮六

大虚谷實 創自鴻濤

渾沌未分 勸主人公

水をもどりてほろほろと
石を散らす身とものじらず

山と水とがくじむ

乾坤一草亭のあらう 信天翁題詠

南總里見ハ犬傳第三輯卷之一

東都 曲亭主人編次

第廿一回

額藏間諜信乃を全き

犬塚懷舊青梅を觀致

却説犬塚犬川の両童子信乃額藏ハ送ふ志を告。義を結びて。久後を相譲り折楚然と足音して外面よう來るのありけり。信乃も耳を側そ目注そとけまぶ額藏をやあろう底ゆくかのが臥房ふ退丸の衣引被をて臥たと程よ片折戸小掛うし。引板の鳴子を尾落めつゝ二四三四うち喰死和子よ宿所よとひゆ。秋糠助がよありうり。恙みんや。と呼べ。障子の破隙さく覗え。支木朽ち竹縁よ掛け片醫片胡坐。背ざす。ひをつねく。庭の新樹をかがめくそり。當下信乃ハ身を起く。かを下障

子を引用。阿爺歎よくて來や。されど且あひえとくひ帯をばく塵袋を
掃ふ。まこと見えて頭をうち掉す。ひゑ措き土足。年三の子となが。蜀
鳩鳥の啼比ハ早稻も晚稻も種浸。畠水田と凌立。稼いとる
つむふり不沙汰をつまう。ね莊官殿より隸らむ。童男ハりふ
そや。と向きて信乃ハ後方を見。額毫ハみみのよう。心地よぶべくとも
臥す。風毛ふうふそとありひく。賣茶求めて勧めども。早ふ瘡るべくを
あふ。とりを糠助はあく。そく困ドキあく。母屋へいかきて。ようを告
餘の人をこく替へせん。さううわがまゆふ。かくしておせうふ。ま
十五歩足ぬとも。異あく。どともかう。つるる。饗僕が資ふなど。あん
弟は看病さんと。鬼のすうある。小父小母ぬ。でもひうけあきて。あぐ
脩少佐。ひきと獨団圖。早合点。鹿忽あぐの信ある。辯の端居をち若者。
そ、あ立て外画へ忙しがふ。やう。又墓六龜條ハ信乃がゆ。朝
ま。ふやれ。ヨリを。タの薪水の夏を資けよとく。小廝額藏を遣し。人目をうり。三四日毎
夕の薪水の夏を資けよとく。小廝額藏を遣し。人目をうり。三四日毎
食のあらせ物を。小坏ふ盛て。饋り遣す。又云が。も音つれて。門より
安不を。向ひ。のう。その初て。屡々。素より愛ほる心あられ。ハ植け
時のひそか。まふ。そのうへたやうち忘れ。久しく訪せ。せざり。小さな
日糠助が。すく。云々と告へ。龜條は。眉を顰め。この比ハ人一個を三人
みても。使ひ足ぬ。公の丁兒奴が。風毛ふうとそりう。かうのうや。あ
あ。と。く。口を鉗め。うち微笑み。く。と。告く。く。と。ともかく。を
まぐれ。ゆく。糠助をかへ。脇く。夫は相譚。六。墓六。彼て舌うち鳴く。か
豈首と彼首ハ間近くとも。竈あくろふあく。それば。そ入。ひすかりて不便。あれ
けり。信乃を呼び。う。く。類べ。べく。ハ。ども。童でこそあと親よ似て。偏

居見とちびゆふ中陰ひまご果ぎへ兼引べぐもあどぞ。今霎時の程
かれ、孰かとも遣く。額藏奴と引えり、眞実こゝげふ歎待ば。
得の著とあふ小駄いととふ。よくあらへと耳語ば。魚頭つ一個の老僕と遣して。
額藏と晉きよ。額藏ハ在や帰すあけり。氣乞を又さふ里さととあ。
すうそあらみと龜篠かめしのハあ下したのほくらよ呼び近づけ。女をと額藏汝も
さばく。代の僕を遣せ。か見えとが異ある氣乞もあらず。総角むすの
狎易く。相撲狂く。負腹おひらも。很く作病せ。あらん。嗚呼の白物系と
疾視て。夫婦齊一敦圍いつくわいハ額藏頬ほほゑみ推當すいとう些頭痛あたごもあつれども。
うち臥くろまで。夕ゆるゆると。やまく。横著よこちゆえとく。よそく叱なぐせま
あん某彼父そなれす。一日よろ。とふく。彼子あとのこハうち解わからざ水みずが汲くむ。
汲くもあき。炊くも吾われも。そぞき措あらわし。とくろ。禁まつて使つかひ。四月の天あま
無能むのうく。目比ひそそ。日ひを消きせ。因い。果くわいひ。こまごと逃はなてかくふ
叱なぐられん。あらバ年來打懲うちう。使せらる主の恩。今す。辱はずく。ふ目めが覺あつま
ても。起甲斐形おもて引被ひきふぐ。衣のうる凡の夏風。獮竭きけつ。虚の病びやう乃
床ゆハ日ひふろう。母屋恋うらやみ。乳鬱きゆくの症。寢ねふ九死。一生涯いきの智惠ちゑと生
き。呼よく。姓なま。姓なま生うく。田畠たばたの稼う。内外うわいの使つかひ。身み入いま
仕つかひ。霎時さうとも。犬塚いぬづか。隸しりらうこと。免めんふせんと掌てを接つく。
真まこと。あらふ。賠話ひがな。あら。夫婦ふうふ。つと。笑わらつ。笑わらて。送お見つ。送お見つ。龜
篠かめしの。此奴このやつ。童わらわ。信しん乃が。ふかく。心こころをあらて。て
ゆゆぐ。ゆゆり。あせあせ。そのよ。あらと。べく。き。云い云いの。あら。う。竊くわ
あら。告おほせ。假病けいび。臥くろ。臥くろ。有あ。一生いっせいの智惠ちゑ。あら。鐵錢てつせん三文さんもんの

直うものあ。さあ戯家奴と罵もべ、亀篠ほどとうも笑ひさへあひを
のそ比せぬ事。信乃はあは終角あれども心こゑハ老けけく。殊の執念。
腹をさあく。生筋のあらぬと考れ。やゝ額藏りや氣か入らざれど也。
日来彼妙より一からず。彼はほろびあるも。秋信乃はまよふぞと云ふ。
名もあらず。もあれた様子を告よ。ふくや。と憣類とも同義を。
梓の弦もあらねども。水向られて。虚とふ憑くを否。目今ややうせり。
如く適むをひきても。生應のせられ。ふせんとふゆうぞ。然と
とも今ハ伯舟侍の外。ふるをあた人あまび。りでうあらがく成うちみ
うん。初更似ぞ慕へく。うりうる疑ひ。只某小強面。過世の
讐言。恐さもあらハ氣質のあり。うしゆあらん。身ふどうと憎る。と
えひりぞ。といふ墓六も。領死假潔の主役も。五性の相剋あると
り。ハ。うるをとひ難けれども。假病せしハ不覺あり。信と懲もべく。之ども。
此度ハ枉く許もあり。よみそがく。折あくよ。兩三人が吉又をり。てその懲と
貰ひ。その度。辛だめ。立孫く。とこそがせふ。額藏頻りに頼つたり。
庖偏のう入退死たり。龜篠要時目送りく。コブ伎ハ何と。穿き。人乃
氣質ハ。うめぐ。總角ハ總角ども。よれ友と。款ひく。使れもせん。使ひも
せん。と。うれ。似ぞ額藏が信乃は鬱悒せし。一日二日のる。や。され
ば。口を利く。欲を。利く。欲を。も。氣質の合ざる。うんま。うむ。と。耳
語。バ墓六頭を傾けく。否。それのみ。小限。べ。と。信乃は。ち。あ。と。あ。ほ。疑ふ。
額藏を隸す。隠監。あらん。欲。心放。ま。ぬ。う。あり。あ。ん。心。す。を。侮る。べ
ふ。額藏が代り。誰を遣。ま。ひ。る。誰。と。ま。ひ。る。誰。と。ま。ひ。る。誰。と。ま。ひ。る。
を遣。ま。ひ。る。渠ハ齡。六十。あ。ま。う。て。人。う。と。め。ぬ。傷。ま。で。勝。ま。う。ハ。三。里。の

父を燐々と起居も不自由あり。額藏と引替て損あれりの小遣としや。と
 りバ走くうち点頭微妙計てあひやれあくんゆへ一西日遠く四五日程と
 歴く。竊小背助を振てよせ渠も信乃が心かくや事のゆきを向う渠も
 心をもろぶ。吾脩夫婦を疑ふえ又額藏をのぞ嫌ひて背助を歟となく、
 丁児一人がくゆく。あまきを疑ふ故ふあくじ事の虚実を揆アモ後計
 策ハあほあべ。あくろぬまと額を合ひ。相譚果て起ふけり。さく両二日
 経過けれハ龟條ハみづう信乃が宿所へりあたてさう氣き安否を回事の
 為体を窺ふ。信乃ハ背ぬを厭ひとく。背ぬも亦真成よ進止モとリハ
 トモア。龟條曾も物あれば。あほ四表八表の物ぐりふ時を移す。今ハかと
 おひく告別とばかりある。ふと夫ハ納戸ふをと折了そよみととくとくふ
 いゆゑく。裏ヌ背ぬを及びよせ。竊又向へと宣ひ。信乃が疑ふよりや。
 せき。おび額藏を召近つけ。箇様こふあらえ。ある成らば云云あり。
 かの如く計んす。後悔もるゝタのびと。亂乞は時をきり。と言あらえ
 き。説示せ。龟條只管歎賞。現針ハ細小でも。の呑れどといふ謗ハと
 らのるふゆう。寔ふ心退しが。少年あれハ用心よ。あほ用心をとすそ
 より。とあらびく。相譚ハ折竹縁を踏鳴り。障子のあきこと過ぎゆ
 あり。龟條ハ立ちゆ。そへ額藏かわとどやと向へば。さうりと答へ。竊
 りびれと。とあき。あたゞえ入きて。と呼び止す。かくら障子を推開つ。
 額藏へまつてゆう。其れ引用く。あくえあよ。膝のぼり振れと。

かう寺掃くをねこーく。りづれるのふやうねども。折のよみまへ告るえん信乃ハ正
まく怪されども番作が僻き心の鬼を譲り受ける。渠が乳質ハ汝もされ。
飽き小慈む。伯母を不足ふぢつと。そがあふとく遣せ。人嫌ひもうごく
あうじ。さうど汝が口さがうて。うつど信乃又腹を恨みられうるわん。
そくとまのきかくもあき。世間男姑の置きとく。よのなゆこえに彼子の入。
コフロつらひざ。この故め只氣成受く。揚足とくきぬ用心をす。外えどべ
うなごとよ。汝ハ六つ七歳より。生涯使ふ小廝うまと。任めもすくかばぢ
か。養三月一主の恩。大きうまとあるあぶ。ようや強面くわてあくとも。終
ゆ信乃又馴近つた。ゆくとあぶ竊み告よ。そく苟且のゆなしへ信
乃をあくへゆびうて。養ふ月日ハ限りあくまで。末ひと遙きのあくべ。
今いづりを小耳よ挿みく。念どく主のゆふあき。よふそれ経の利生あん。
あうるうりや。とあくらゆまび。墓六ハ鬚抜み。褪子を拭て頤搔掛額藏
えぢきり。汝ハ果報ある。怪めうて憑く。おうどひりゆく。亀條がは機密を告げき。
かれハ汝を遣く。亦復背ぬとかくせん。あくの程ぞ辛防せよ。とりへ
き。忘ぶた前日私語あくせう。大塚とおあく。外よりうべのあれ入あれ。
やん野心あぐもゆく。ゆどもかくちあく。馴近つれ。あんる。うかくかく。竊み
告やさん。あくのゆく。ゆく。思召れると真まく。回答をまれハ主
まふ。とむ。まく。夫婦ハ。ゆく。言をあだ甘くして。賺を残す。賺まく。又彼背ぬ。晉とん
とき立んと。立んと。亀條ハ。邊へ推禁め。童ども背あへせ。彼子の宿
まきり。所へ。独ゆんハ。今さく。面がせあく。吾脩が後。跟く。末よと。ひく。眞く
身を起く。え合せ。う衣の前。うう結びの帶の端。推拊あぐ。牛縁よ。



就ても亡人の忌果るやうで二軒の家が隔て俟あまふとうふ不便ゆる。か。
 願ぐは五七の忌日限りあるん方を母屋へ艱ひとみが後半とくゆりなむ墓
 六とひの初う。あすせまほく名ひまどあん方うを汲みて月日たると
 待ふも。いあふ否欵ひくかそと向まく信乃ハ嘆息。白屋うごく便
 あま。親をえふ今又よ離とゞぐハ内里ども四十九日も別まふかう。百
 日うちもその期ふるうがな不去かくゆべ。おのが心の隨ひて物候思
 うま。おまえが日を過てやど罪あま。ともかも計ひえ仰ふ懷りゆく。と
 愉く諾ひ。亀條あく歎びく。吁賢くやひこへうかよれ子ぞ。然
 ら五七の逮夜え。鄰九里人を招きよせ。佛のゆふ物を態進ひ。その
 次の日お戸を鎖て。おん身ハ母屋へ移り。詞敵ふきとども女兒瀕路ち
 けり。渠をがん身が妹ともお上ざるとも足りひ。独うち笑へ。

信乃ハ呆まく應せば。亀條ひよ機嫌よく指僕へくうち点頭あた人の
 三十五日ハけぞり僅よ四日か程う。幕六どめゆ歡せ翌トク逮夜の准放
 せんさむ。吾脩ハ罷え。額藏よ。毎事よ。あらうを付くと仕へよ。ひま
 ことを忘く。信乃もよろづよ心くまう。火あれ水あれ使ひタマ巔上の川ユ
 变とりふひふ舟漕ぐ。乗一蒐く。打懲ととけくハ名を。彼背ぬ奴ハ背
 ど。門やき。額藏をわくまうれば。おまえ供く母屋へ還れ。まだやうやく
 立ち。あくよはうと庵宿う。障子をかき引岡れば。お男が落著貞る。
 そこの如みをく。純やうや。門へゆく。そがやく立ちを止めあへ。信乃
 のそく席を避日ひと長くゆう。今且く語せえ。食の素湯も佛侍と
 おふ頭をうち掉く。茶をなげく。うち間ハゆきを曲突下の鹿采麥のか納
 え。向うね。損ヨヌカ。又こそあとひひく。おを送る信乃額荒腹つかえ

八大傳三車卷二

つゆくや。背後ハ縁より成突く信乃ハ別を黄楊樹の刈込伸一庭を出る。
主の老女又引そひ。且々額藏ハ外面へ立出く母屋の外へ立ち眺め左
辺右邊を見かづる。片折戸を楚と閉。舊の如く對坐アモ。莊官夫婦ふ
り立つる。又ヨリひき事の趣。竊ニ信乃ハ頻々嘆息し。
親のみよ中ヨロクとも異女の奸あり。又ヨリあはむ只一人の伯母とおりハ今
さふ蓬れ心あひてや。さるをととばかり疑ひ。讐敵の如もあれて、長年月
日をりゆく。彼方ざるふ送りもぞ。宴會ふ進退究りぬ。とりひうて又嘆息を。
額藏ニ成慰め。さるをとと其のゆき。伯母成夫婦ハ慾のまゝ。只利の
為ふ骨肉の愛を亡く情を知ふ。邪氣を避ふ何うあもん。され又かんが
影ヨ添え。返間の謀。その繪ハ釋懸あらう。かれハ只ひつまでも。かん考と吾
脩ハ眠り。そひ。その志あひがる也。と多くふやうととある。さると見ハ某がり。
身を投樹。そひせんをと見え。あみて物を失ふとも。その期の役やも
ナ。心陥一と諫。信乃ハ忽地感悟。かりども莞余と笑。人の才
折。終ニ慈母とあふ。よや其妙。あふとも。彼方ざる。よ
ゆ。毎ふ信用せられん。九石の弓も張る。久一けび。弛む。りうび。や。彼人ふ
害心ありとも。かん考が心の信り。采よく剛を受ひ。伯母清ヶ邪怪乃角
折。終ニ慈母とあふ。よや其妙。あふとも。彼方ざる。よ
身を投樹。そひせんをと見え。あみて物を失ふとも。その期の役やも
ナ。心陥一と諫。信乃ハ忽地感悟。かりども莞余と笑。人の才
折。終ニ慈母とあふ。よや其妙。あふとも。彼方ざる。よ
身を寄。原尾親の邊言。あれバ吉凶ハ只運。任せん。聴て母屋ふ
て。膳合。腹心と相悟。と難。うほ後このゆき。教あう。バ
示。とひ。額藏頭を拊。オ。かん考ふ。及ねども。俗ふり。岡見。八目入
素。智囊富。機。脇。交ふ。應。と。禍を避。それ又竊ふ。指と
き。笑の中。かう。力を御。ん。努力。と密語。示。合。思慮遠

謀覗。現一隻の賢童あり。さう招ふ番作が三十五日の逮夜みるやう。龜篠木ハ
きのあす。羨美不膾の用意。碗家具等。毋屋より運ぶ小廝が發戻り。
寔ふ足ハ擂棒も。ちく働く臺所物大々。ふ整へば。もや黄昏。よたらまふ事。
この日も信乃ハ亡親の墓參りせり。叙よ菩提院。法師を伴ひ遠く
立かれ。法師ハ家庸。うち對ひ木魚敲。もく看經。一口茄子。ご澄
け。料供の菜を數々。浩然小糠助。里人夥詣來つ。寒暖の時宜
口誼。或へる見入のゆりひ歩く。昨けのゆる。二十五日ふ當り。ふ
む。常迅速。はるひのう。あまう上坐。不軀千萬。枝く遠慮。及ぶぬる。かひを
御免。さう。あまう。六十の延破。をひとあり。
取ふ。欵こと。迷惑。篠平めり。か年役。さ宣ふ。六十の延破。をひとあり。
坐を占まふ。信乃が。う。並居る。飯ふ中酒。ご挨拶。紛糾由。断を乞
済一額。藏。が碗を奪あく。淳盛。ハ鼻。よ支。又胸。よ支。ぬ。め。とけ
被。半減。と。息。戒。吻。く。下戸の恨。を。冷笑。宗旨。違の上戸客。法
師を上坐。六歌仙。歌。膝崩。く。置。蓄。こ。う。時分。を。計り。て。墓。六。ハ縁頬
より。遠り。あく。上座の障子。推。せん。孰も。揃。と。よく。來。ま。せ。進
ら。ひ。力。の。ハ。み。れ。ど。寢。だ。く。相。禪。ま。と。ひ。く。進。ま。て。席。み。著。た。ひ。首
い。ひ。た。の。ひ。ま。ひ。ど。り。ち。り。入。ま。く。引。伸。を。跨。の。辟。衣。積。も。菱。織。の。ひ。と。稜。ゆ。主。態。よ。衆。皆。齊。一。署。を
措。お。ひ。く。る。死。の。鄉。食。應。鎧。武。者。ゆ。あ。く。ね。ど。も。屈。伸。と。う。不。自。由。ふ。額
食。粒。脂。よ。花。雪。吹。これ。づ。く。と。を。う。と。小。拾。ふ。よ。餘。る。粒。辛。苦。背。門。の
つ。との。あ。く。ぬ。ち。ぐ。下。ま。ま。く。い。と。一。人。が。ひ。ハ。皆。咄。と。笑。ひ。不。堪。が。噴。散。を
め。ふ。せ。じ。も。が。き。

草がおど宿だ。助くとまよと啣ちう。かうけだ墓六。苦切て。艮もかう。
 且くそい。各佐えをもと加く。口が妻ハ舊の地頭大塚家。而作ぬ。
 の嫡女ふく。番作が嫁ふ。嘉吉の結城合戦。その家一旦滅亡。
 子孫民間ふるて後再興せ。亀篠が禄。殿ある。功。不。り。で。又
 とあがう。死せうと。番作が妻をねく。還ア。ひで。所。引。け。
 莊官えふ。讓らん。と。甲斐。亀篠。塞人。身の不自由ふ。心。直。く。私。や。
 行ひも。あ。奴。を恨め。口。を。が。な。不。讐歎の如。罵。の。生。涯。抱。り。ふ
 ざ。く。が。公。う。一。と。公。ひ。う。ど。有。敷。考。役。義。重。け。ま。ぶ。あ。あ。よ。う。ひ。を。さ。び。て。
 勸解。ほ。う。の。あ。う。ど。か。あ。あ。ふ。各。佐。渠。を。憐。え。構。を。結。び。残。を。集。め。
 家。を。購。ひ。田。園。を。隸。て。生。涯。養。れ。へ。舊。と。あ。う。美。う。信。え。口。へ。丁。そ
 出。く。り。子。酸。鼻。や。辱。ぐ。年。来。感。嘆。浅。き。ど。も。う。名。ひ。う。各。佐。ふ。口。道。と
 述。め。役。義。の。か。う。そ。些。一。人。推。量。せ。れ。よ。これ。ハ。是。過。ゆ。彼。偏。意
 地。を。立。と。う。く。墓。なく。う。り。一番。作。が。黄。泉。の。迷。ひ。ハ。信。乃。の。み。ん。この。孤。と
 養。ひ。よ。う。て。人。と。あ。う。先。祖。へ。不。孝。こ。と。亦。人。と。い。う。ん。や。より。と。亀。篠。と
 相。禪。つ。渠。が。親。の。果。ふ。一。日。よ。う。小。廝。ホ。を。冊。せ。送。代。又。夫。婦。を。く。歩。を
 運。び。心。残。添。く。五。七。の。遠。夜。の。け。よ。が。日。や。そ。等。因。ふ。せ。ざ。る。の。ハ。各。佐。も。知
 て。ぞ。あ。う。ん。あ。う。れ。ど。も。十五。よ。も。足。う。ざ。任。を。の。う。ま。ご。う。み。を。あ。ち。て。こ。ふ
 置。づ。れ。翌。立。ハ。母。屋。へ。迎。へ。と。う。く。通。丈。夫。ふ。守。育。女。兒。濱。路。を。妻。つ。く。大
 塚。氏。の。世。嗣。と。ほ。じ。就。て。彼。番。作。田。ハ。各。佐。よ。返。え。ん。款。又。信。乃。ふ。與。人。款
 と。向。バ。衆。皆。頭。を。擧。そ。宣。ひ。序。ま。ど。も。わ。く。親。の。物。ハ。子。ふ。讓。る。貴。賤。上
 下。の。差。別。う。件。の。田。園。の。主。と。り。の。あ。との。息。子。の。外。ふ。う。吾。们。が。う。ん。で。ぶ
 き。い。よ。う。ふ。計。せ。ま。ひ。た。と。り。ふ。墓。六。うち。笑。く。あ。う。が。信。乃。が。成。長。す。う。で。

估券ハ某領^{アシカ}。又スこの家ハ床を拂^{アシカ}。彼番作田の稻城とせん。各位未
知セム。と信メテ。ちが田へ引くト。あやや水飲百姓額凡あハ^{アシカ}。
応難れハ庵^{アシカ}。庵^{アシカ}の下^{アシカ}。龜^{アシカ}條^{アシカ}。相槌^{アシカ}。轂^{アシカ}人^{アシカ}と進^{アシカ}入^{アシカ}。信乃^{アシカ}が^{アシカ}。子^{アシカ}と奉^{アシカ}
推並^{アシカ}。ひ^{アシカ}の仏^{アシカ}とま^{アシカ}れか^{アシカ}。され。この子ハ吾^{アシカ}脩^{アシカ}が^{アシカ}壻^{アシカ}。子^{アシカ}あり。子^{アシカ}と奉^{アシカ}
女^{アシカ}。入^{アシカ}の子^{アシカ}を養^{アシカ}。くとも^{アシカ}慈^{アシカ}む。欽^{アシカ}吾^{アシカ}のう^{アシカ}。外^{アシカ}任^{アシカ}。任^{アシカ}ふ。讓^{アシカ}る。田園役^{アシカ}義^{アシカ}も^{アシカ}有^{アシカ}。
とみ成^{アシカ}。彼番作田を何^{アシカ}せん。信乃^{アシカ}も如^{アシカ}此^{アシカ}。あくろぬ^{アシカ}。よりして^{アシカ}。宿^{アシカ}の
窟^{アシカ}の下^{アシカ}。灰^{アシカ}。果^{アシカ}。あん^{アシカ}。身^{アシカ}が物^{アシカ}。すり^{アシカ}。憎^{アシカ}。と^{アシカ}。弟^{アシカ}。今^{アシカ}か^{アシカ}。あり
て^{アシカ}。寃惜^{アシカ}。をふ。東^{アシカ}を^{アシカ}。見^{アシカ}。て^{アシカ}。伯母^{アシカ}。よ^{アシカ}。外^{アシカ}。ふ。親類^{アシカ}。う^{アシカ}。た。この子^{アシカ}。久
後想像^{アシカ}。像^{アシカ}。襤^{アシカ}。祫^{アシカ}。袖^{アシカ}。兩^{アシカ}。降^{アシカ}。る。と^{アシカ}。足^{アシカ}。て^{アシカ}。濡^{アシカ}。ざ^{アシカ}。り^{アシカ}。龜^{アシカ}條^{アシカ}。よ^{アシカ}。立^{アシカ}。られ^{アシカ}。
ひ^{アシカ}。頻^{アシカ}。頗^{アシカ}。り^{アシカ}。ふ。枝^{アシカ}。袖^{アシカ}。兩^{アシカ}。降^{アシカ}。る。と^{アシカ}。足^{アシカ}。て^{アシカ}。濡^{アシカ}。ざ^{アシカ}。り^{アシカ}。龜^{アシカ}條^{アシカ}。よ^{アシカ}。立^{アシカ}。られ^{アシカ}。
諸^{アシカ}。鼻^{アシカ}。う^{アシカ}。もう^{アシカ}。む。里^{アシカ}。人^{アシカ}。ホ^{アシカ}。う^{アシカ}。も。奇^{アシカ}。一^{アシカ}。嘆息^{アシカ}。一^{アシカ}。寔^{アシカ}。少^{アシカ}。親^{アシカ}。い^{アシカ}。夏^{アシカ}。憂^{アシカ}。苦^{アシカ}。會^{アシカ}。ゆく。人^{アシカ}。乃
誠^{アシカ}。と今^{アシカ}。ぞ。知^{アシカ}。伯母君^{アシカ}。の述^{アシカ}。懷^{アシカ}。ハ。逮^{アシカ}夜^{アシカ}の追^{アシカ}善^{アシカ}。この上^{アシカ}。番^{アシカ}。作^{アシカ}。と。の。御^{アシカ}。子^{アシカ}。息^{アシカ}。と
皆^{アシカ}。ごふ。と宣^{アシカ}。ひ^{アシカ}。一^{アシカ}。郷^{アシカ}。の。入^{アシカ}。大^{アシカ}。き。ゆ^{アシカ}。り。か^{アシカ}。て^{アシカ}。何^{アシカ}。で^{アシカ}。疑^{アシカ}。ふ。づ。件^{アシカ}。の。田園^{アシカ}。を。莊
官大人^{アシカ}。且^{アシカ}。く。曾^{アシカ}。領^{アシカ}。せ^{アシカ}。れん^{アシカ}。る。勿論^{アシカ}。み^{アシカ}。と。異^{アシカ}。口^{アシカ}。同^{アシカ}。音^{アシカ}。ふ。心^{アシカ}。一^{アシカ}。暮^{アシカ}。六^{アシカ}。龜^{アシカ}條^{アシカ}。欲
ひ^{アシカ}。け^{アシカ}。冷^{アシカ}。う^{アシカ}。盛^{アシカ}。え^{アシカ}。き。盃^{アシカ}。を^{アシカ}。勧^{アシカ}。飯^{アシカ}。を^{アシカ}。淳^{アシカ}。く。歎待^{アシカ}。ち^{アシカ}。免^{アシカ}。小^{アシカ}。彌^{アシカ}。と^{アシカ}。り。
か^{アシカ}。て^{アシカ}。そ^{アシカ}。夜^{アシカ}。初^{アシカ}更^{アシカ}。の。比^{アシカ}。饗^{アシカ}。膳^{アシカ}。す^{アシカ}。而^{アシカ}。果^{アシカ}。一^{アシカ}。ぶ。法師^{アシカ}。ハ。布施^{アシカ}。の。二^{アシカ}。杖^{アシカ}。頭^{アシカ}。脇^{アシカ}。の。あ^{アシカ}
燭^{アシカ}。も。法^{アシカ}。の。燈^{アシカ}。火^{アシカ}。と。後^{アシカ}。き。先^{アシカ}。こ^{アシカ}。ろ。一^{アシカ}。口^{アシカ}。念^{アシカ}。仏^{アシカ}。南^{アシカ}。を。阿^{アシカ}。弥^{アシカ}。反^{アシカ}。畝^{アシカ}。ぐ。輒^{アシカ}。る。な^{アシカ}。り。と。上^{アシカ}。戸^{アシカ}
扶^{アシカ}。そ^{アシカ}。か^{アシカ}。り。去^{アシカ}。迹^{アシカ}。ハ^{アシカ}。さ^{アシカ}。か^{アシカ}。大^{アシカ}。風^{アシカ}。の。疋^{アシカ}。く。如^{アシカ}。く。蕭^{アシカ}。す^{アシカ}。か^{アシカ}。洗^{アシカ}。ひ。淨^{アシカ}。め^{アシカ}。拭^{アシカ}。ひ。納^{アシカ}。五
器^{アシカ}。の。音^{アシカ}。の。そ^{アシカ}。や。そ^{アシカ}。う。り。か^{アシカ}。く。そ^{アシカ}。の。詰^{アシカ}。朝^{アシカ}。信^{アシカ}。乃^{アシカ}。ハ^{アシカ}。亡^{アシカ}。又^{アシカ}。母^{アシカ}。の。墓^{アシカ}。ふ。香^{アシカ}。花^{アシカ}。ひ。向^{アシカ}。ん^{アシカ}。と^{アシカ}。
菩提院^{アシカ}。へ。赴^{アシカ}。た^{アシカ}。よ。還^{アシカ}。す。を。ち^{アシカ}。そ^{アシカ}。で。暮^{アシカ}。六^{アシカ}。夫^{アシカ}。婦^{アシカ}。ハ^{アシカ}。小^{アシカ}。廝^{アシカ}。ホ^{アシカ}。を。駆^{アシカ}。立^{アシカ}。く。大^{アシカ}。塚^{アシカ}。が^{アシカ}。家^{アシカ}。の
調度^{アシカ}。を。取^{アシカ}。運^{アシカ}。セ^{アシカ}。龜^{アシカ}。下^{アシカ}。の。物^{アシカ}。席^{アシカ}。薦^{アシカ}。戶^{アシカ}。障^{アシカ}。ハ^{アシカ}。物^{アシカ}。大^{アシカ}。よ^{アシカ}。沽^{アシカ}。却^{アシカ}。く。も^{アシカ}。や^{アシカ}。空^{アシカ}。房^{アシカ}

八犬傳三軒卷一

日をひと待て。嫁ぐるふの。濱路へ。とゆき。夫婦が間み推す。やざ熟
やふ物のうせ。私ど間近く。されば相識の信乃も。こと後兄おげよ。より
あちの子みあき。大をくまうて。そまこの良人等く。背犬引伸して。をく
夫婦みあく。睦く。あくへと説示きて。恥あらむ。濱路へ。まみ友衛
堪め。そが。修衛と立て。屏風のうふ。躲れ。信乃は。よろぶ。由断せ。甘た
言葉ハ。とが。身の毒。と。り。ハ。絶く耳。す。か。け。ど。殆困。ド。果て。そ。龜條。これを
説引。えく。西面。あ。一室。ふ。赴。あ。れ。成。あん。房。が。子。舍。ふ。せん。読。書。ひ。羽。日。怠。勞
き。あ。所。要。あ。額。藏。す。と。濱路す。と。使。ひ。と。遠慮。あ。れ。わ。ぬ。ふ。よ。
り。う。ち。で。放。う。ひ。く。れ。ら。ち。解。き。と。慰。め。く。他。事。も。あ。げ。み。そ。管。待。ち。か。
三。伏。の。夏。過。く。秋。の。初。風。く。比。ふ。信。乃。ハ。親。の。忌。ハ。果。く。と。よ。う。先。ふ。龜
條。ハ。信。乃。が。女。服。う。成。男。衣。ふ。縫。更。め。との。日。城。煌。廣。ふ。年。と。よ。年。ハ
尚十。あれ。ど。も。人。あ。小。倍。を。身。長。う。と。が。十四。五。歳。の。童。と。刃。あ。め。り。け。
祝。だ。の。赤。飯。序。小。額。の。隅。を。取。る。一。丈。と。豫。て。夫。不。勸。め。一。丈。墓。六。尺。不
稱。ハ。親。の。明。察。忝。く。名。を。か。つ。く。形。う。た。身。の。久。後。を。定。め。く。ね。く。る。
人。ホ。と。老。狸。小。欺。き。く。い。と。憑。く。ち。り。ひ。け。り。あ。ま。う。の。古。又。ゆ。信。乃。も
只。そ。が。り。隕。ゆ。慄。ハ。ど。女。服。を。更。め。て。凡。常。小。往。す。タ。ハ。父。番。作。が。送。訓。又
う。か。亡。親。の一。周。忌。死。迎。へ。ふ。逮。夜。え。家。庵。ふ。籠。ア。と。父母。の。冥。福。と。祈
る。の。外。な。り。明。日。信。乃。が。墓。ま。の。後。者。え。龜。條。豫。て。分。付。て。額。義。と。壇。
これ。ど。も。外。の。聞。を。憚。ま。通。途。と。く。物。う。せ。寺。へ。詣。く。共。侶。ふ。そ。の。墓。を
洗。淨。め。水。底。汲。み。入。と。花。を。む。向。て。主。後。廻。向。ふ。時。を。禊。せ。が。涙。ぞ。り。と。進。ま

八犬傳三輯卷二

あ玉とその形相似たり。その文字も異あるも。故あえぞるなれども。
曉りかくいといふ有理。とて亦護身囊小秘ある。玉をもぞ知く
あせらふ。その小大も。文字も等し。寔不然あり。因欵果欵玉といひ梅と
ひ符節をあらせり。やまと。寄へ試みよ推え。ハこの玉原ハハ顆あらず。
仁義八行の文字を具足するふや。ちとぶ遺玉六の玉世ふうとりふがう
ら。どこの梅矣。そハ房小生る。この玉とこの梅子小顕き。文字何ぞ矣。
問。ども草木非常うり。叩け。とも玉石答を必一。も因縁あ。後ふるひめ
せんの三人。ハ只寄をぬむ。人の人ちのびうちも。知き。コレを告べまし。
努秘をぞしく。と密語あ。そハ房の梅子を紙小捻ア。玉うち共ふ。
各囊ふ納め。荒こう庭を走ア。ゆく。航く宿所よ還す。さればあ
年皋月の比件の梅の熟せりと。墓六ヶ家の小廝ホハまうあむ迎き里



入ホハモメテその八房うる武見著ツ。世ふめぐらうあることなつとく。アド
夫婦小告るもあ。又彼此小語りつた。風聞高くあつめく。その梅熟
きふ及びハ彼八行の文字ハ滅う。この故小里人ホハ只八房を賞む
のみ文字のるハあるゆあ。モ是よりして毎歳みその実ハ完生されど。
文字ハ二の春のみか。後又竟は顯とぞ。されば墓六龜條ハこまづの
子のヨヌウ物歎び。年々塩藏ゆ。酒食の菜ふ元るのみ。この
梅漸く小人小知らぬく。名木ふたりアレ。与四郎がふりさえ竹のえて。
八房の梅。与四郎塚とく。故老の口碑小傳へよども。後年數度の
兵火小係アリ。梅も枯れ塚ハ鋤玉く。今ハその蹟も沒認。只彼
猫又橋のみ遺ミ。

第廿二回 濱路竊小親族を悼む

糠助病と其子を思ふ

再説大塚墓六ハ信乃を迎とうてよう。女房龜條共侶小いと愛く
官待をゆく。口外聞を飾るのみ。あらふ刀を磨ぐ。ヨヌカ。そを
りふ小そと尋ねハ墓六既小里人ホを欺く。番作田を横領。ちまく
一と信乃がみふ一毫も用ひざれども。いまと村兩の大刀と得をき。これと
ていひふ入金。後彼少年を結果ん。あらふ宝刀ふようて。コブカ。あく
寢跡べく。又濱路みハ佳。背招く。身すもく。老樂あぐ。あふあれ
ども。頼ふ小信乃が固魂。凡庸の童ろく。不早。事を為損せハ毛と
吹く痴を求め果ハ原價小あくからん。只真成。歎待。由あきを
あらむと。と腹裡小深念。亀條小の機密を告て斯謀る。あ

ありとろ。かれハ信乃が危死と石の下小生成を雞卵薪ふ巣へ詫ひ離會ハシマツ
 差シマツあら候ハシマツ。親の先見送訓ハシマツ。加ハシマツよ才器勇悍牛若をも欺くべく
 正行ハシマツ。身ハシマツ易ハシマツ。稀有の少年なるをけとバ。その情をよく知りて片晌ハシマツ
 心を放さざ。舊宅ハシマツ小あり一日より。伯母の宿所ハシマツ小積り一日より。件の宝刀ハ
 腰ハシマツ小離ハシマツ。坐るとハシマツ。傷ハシマツ小どろ措ハシマツ。臥ハシマツとハシマツ。枕ハシマツ小よせ。護ハシマツ等
 困ハシマツう。候ハシマツハ偷兒の隙ハシマツうと形ハシマツ。主客の勢ハシマツひかくの如くゆく。一トとせゆす
 送り。奸智ハシマツ小長ハシマツ。墓六ハシマツあれども。愁ハシマツふみをみく。又ハシマツ咎められ。年
 来日ハシマツ。心尽ハシマツ。一も泡と消て。又ハシマツ入ハシマツうとハシマツ。と附ハシマツ。信乃ハシマツが安穩ハシマツ。でも小
 解ハシマツ。今茲又ハシマツ。不ハシマツ。村兩の大刀。又ハシマツ小薙ハシマツとも。信乃ハシマツが安穩ハシマツ。でも小
 まハシマツ。それを管領家へ進ハシマツ。由形ハシマツ。ようや彼宝刀。今又ハシマツ。有ハシマツ。あ
 ざと。主物ハシマツもあハシマツ。ふあり。又ハシマツ。物ハシマツ。あハシマツ。とも。又ハシマツ。家ハシマツ。あハシマツ。されば終ハシマツ
 よ。有ハシマツと。あハシマツ。し。口ハシマツ。官ハシマツ。や。早ハシマツ。そ。そ。の。謀施ハシマツ。一。か。こ。そ。う。不。便。ゆ。く。
 あ。ぐ。不。危。し。女。兒。濱路。ハ。尚。稚。幼。不。今。よ。り。して。十。年。待。と。も。そ。の。と。の。達。充。
 の。よ。ぞ。遠。く。謀。業。長。く。利。ゆ。短。慮。ハ。功。と。う。か。と。と。漸。小。心。ひ。え。し。龜。
 節。よ。も。そ。の。う。成。ぬ。き。そ。く。且。く。盜。む。の。身。を。藏。め。口。を。く。額。筋。小。信。乃。が
 意。中。を。掲。ら。ぬ。ま。ど。こ。れ。ね。便。り。を。ぬ。ま。や。も。わ。よ。ぎ。さ。れ。ハ。亦。額。筋。ハ。件。の。る。然。
 主。夫。婦。小。向。る。每。陽。史。信。乃。を。譏。き。ど。害。ふ。う。ぐ。だ。る。身。を。ば。り。う。き。
 そ。の。問。れ。し。も。答。い。よ。を。竊。小。告。う。て。あ。け。と。信。乃。ハ。や。く。由。勘。せ。ば。
 こ。立。る。陽。子。ハ。伯。母。を。慕。ひ。く。小。廝。よ。ま。く。使。れ。な。か。と。二。氣。莊。再。し。く。
 春。と。明。け。燃。と。暮。れ。流。る。月。日。小。委。ミ。う。け。ま。文。明。も。も。や。九。年。か。り。く。
 こ。の。年。信。乃。ハ。八。八。歲。濱。路。ハ。二。つ。歩。り。ま。で。二。八。の。春。を。迎。へ。一。花。然。ん。と。く。
 月。の。前。小。芳。一。く。柳。翠。翠。を。ま。く。霞。の。間。小。戦。ぐ。又。似。く。彼。奇。才。弱。尉。

ア。此六姫娘うち少女あり。その器その色鄙び稀。この夫か。この婦あらん。ハ
宴は天禄を乞ふと。里人ニ至れ。誓言さうのち。莊官夫婦を取る。毎小そみ
婚姻を催促。墓六も龜條。豫ひひつゝある。まばとの返答不迷惑して。
害心あり。再發し。竊ふ信乃を結果。んと。まろ急がせられども。十二歳の
時。ふり謀り。かえ才子。今ハ才や丈夫よりて。身長五尺八九寸。臂力も
定め。強く。二葉小刀。摘む。竟。小斧を用ると。ぞりふなつ。そぞう
と。ふべく。悔れ。と。泣き。と。脇を噬。と。甲斐。と。やせす。かくや
せす。と。業。と。煩ひ。と。折鄰郷。忽地騒動。と。不慮の合戦。起り。小けり。
と。の。の。故。を。す。す。小。粵。小。武。藏。岡。豊。嶋。郡。豊。嶋。の。領。主。小。豊。嶋。勘。解。由。左。衛
門。尉。平。信。盛。と。り。武。士。ゆ。り。多。と。大。名。あ。り。と。も。志。村。十。條。尾。久
神。宮。み。と。數。郷。を。管。領。と。その弟。煉。馬。平。左。衛。門。倍。盛。則。煉。馬。の。館。小
あ。ころ。餘。平。塚。圓。塚。の。一族。蔓。延。く。榮め。と。舊。家。あり。信。盛。兄弟。そ
初。ハ。兩。晉。領。小。往。り。ふ。聊。怨。う。よ。あ。ま。と。遂。不。胡。越。の。名。ひ。を。ぬ。せ。す。今。爲。小
の。北。晉。領。山。内。家。の。老。臣。長。尾。判。官。平。景。春。越。後。上。野。兩。國。と。伐。靡。て。
既。み。自。主。の。志。ゆ。り。よ。と。と。豊。嶋。を。相。譚。と。信。盛。立。地。と。一味。同。意。と。
い。と。晉。領。小。往。り。と。と。絶。ふ。山。内。扇。各。の。兩。晉。領。も。と。と。小。軍。旗。を。廢。ふ。
敵。の。威。勢。微。う。うち。先。て。や。豊。嶋。を。討。ん。と。と。文。明。九。年。四。月。十三。日。巨。田
備。中。必。持。資。植。松。刑。部。少。輔。千。葉。み。自。胤。ふ。を。大。將。ゆ。く。軍。勢。九。千
餘。騎。不。意。ふ。覆。く。ま。と。池。袋。ま。と。推。寄。せ。と。豊。嶋。が。と。と。由。出。と。
敵。寄。ま。と。と。ふ。ひ。み。と。後。ど。一。族。い。づ。れ。も。と。在。ま。と。鎧。投。被。け。馬。騎。走
う。彼。此。よ。り。集。會。一。え。摠。大。將。信。盛。の。一。陣。ふ。煉。馬。平。塚。圓。塚。乃。軍。兵。合
せ。と。二。百。餘。騎。江。古。田。池。袋。ふ。馳。向。ひ。と。用。を。咄。と。あ。り。せ。と。征。箭。を。射。る。

豊嶋の一族
管領家の二えん
将と他袋

ノ戦々

源平左近傳



相あれ。兩軍入それ遣し違たが。駿と轍われ。火ひ花はなをちうて。ゆゆ日ひわたり。敵の。
う。豊嶋とよしま小勢こぜい。初度はじどの戰たたか。小千葉植松ちばうらを殺崩さつぼう。頻ひんふ捷き。
乗のるのの。更さら不用意いのう。腰こし兵へい糧りょうを携おえ。士卒しそく漸せんく。食渴しょくかつ。勞ろう。
引退ひりたい。とどろ相あ。寄よりの大將だいじょう。備そなへ中なか持も資し。麾まうち揮ひ。味方みわがたを激げき。
短兵たんぱ急いそ。攻立こうりつ。豊嶋とよしま辟易へきいつ。擊う。數すう死しき。千葉植
松ちばうら。とどろ氣き。魚鱗ぎょりん。備そなへ十文字じゅうもんじ小駄こだつ。息いきを吻くちせ。接つ。
け。豊嶋とよしまの士卒しそく。算さんを素す。悉ご砍伏かんぶ。剰信盛じゆせ倍ばい盛めい。亂軍らんぐんの
中なか。奪だつ。勝かつ。豊嶋とよしま。煉馬れんまの兩大將りょうだいじょう。一朝いつじょうの恩おん。よろしく。強弱きやうねつ。
勢せいひ。豊嶋とよしま。一族しゆく。郎黨ろうとう。數すうを彈う。舊家きゅうけ忽こ亡なび。よろしく。これよりて
よき。且よく。静しづか。も。菅すば。菰よし。大塚おおつかの里さと。でも。人のひとの穢けい。又また。不只ふし墓は。墓は。六ろく龜かめ條じょう。ホハ。互たが成な。車くるまの。ふ。ひ。り。く。か。て。ふ。子この。もの。姫ひめ。烟えん。今いま茲る。ハ。整そひ。

難ひ。冬ふゆ。明年波風はふう。必ひ。濱路はりゆを妻め。信の。小村長こむらを讓ゆ。人ひととも。
里入さとひり。必ひ。濱路はりゆを妻め。信の。小村長こむらを讓ゆ。人ひととも。
里入さとひり。必ひ。濱路はりゆを妻め。信の。小村長こむらを讓ゆ。人ひととも。
の比ひ。より。二親にしんの口くづ。信の。ハ夫お。女め。婦ふ。よ。と。ら。ひ。難ひ。た。る。言こと葉ば。高たか。
ま。と。く。二。親。の。口。づ。る。信。の。ハ。夫。よ。女。ハ。婦。よ。と。ら。ひ。難。た。る。言。葉。高。を。
実じ。う。と。受う。て。海かい士し。う。没ぼく。も。う。よ。こ。う。つ。を。し。よ。り。よ。小。恥はず。く。欽けん。く。それ。と。う。ふ
え。入い。よ。お。い。り。く。も。樂うれ。く。て。心こころ。入い。く。仕つか。く。余よ。も。彼かれ。二。親。ハ。養う。ひ。女。と。り。
よ。う。を。濱路はりゆ。告く。も。お。う。せ。ど。只ただ。生う育いくの。子。の。と。く。に。う。ま。と。竊くわ。不。告。も。う。る。の
あ。至いた。實じ。の。親おやぢ。ハ。煉馬れんまの。家臣けいし。某まことに。い。り。づ。り。の。ゆ。く。同。胞どうぼう。も。お。う。す。を。濱路はりゆ。灰ほ。不。
傳つた。不ふ。年とし。十二じゆ。三さん。の。比ひ。う。ぐ。一いち。あ。き。そ。そ。お。ひ。あ。か。それ。ハ。現。在。の。親。達だつ。が。入。ふ。愛あい。
る。と。く。反。ひ。ま。と。口。と。い。表。裏ひら。ゆ。く。傷。不。人。の。う。を。折。ハ。ま。も。う。死。る。伏。罵。辱おとし。不。好。い。
捺な。る。と。つ。ん。せ。く。撮。縮こ。る。と。稚。兒。と。死。へ。ち。か。く。な。り。そ。う。字。そ。の。恩。浅。き。ま。
わ。く。福。ど。現。生。み。親。子。わ。う。い。とも。悲。れ。ん。身。ハ。う。抑。こ。が。實。の。親。ハ。煉。馬。

殿の家臣ゆく。何とゆき人せん又同胞もあらずりある。日がるゆく兄歎
弟歎姫うづえ歎妹えありや形やと人傳小向よ絶て涙の袖を親共
兄せど親をありみあらう筑紫の果るぬ故郷ハ三里不足とせく。
あらあれどもこぶみみよ、鞍馬の丸折などぞ近く遠て物ひ春の儲よ
牽牛と馬の背ぐま土蘿葛練馬とせけバ恋ノ。おひけかた憂ひと
倍く今茲煉馬家滅亡。一族豊嶋平塚ハきえ後類士卒大きあを。
撃れりと竹刀えーぶ瀕路ハ哀しきゆきな。さあん更にが実の親胞
兄弟も脱きあひ。ち度母のゆきゆと歎婦女子ハ助けらくたよえく
こそとまれあらぬ。養親達吾脩少実父母あらず。白地ふ告るふ
とも。襁褓の中より養れ。恩愛を化かすと死をあざふ。一日ハ是難ゆ
き。親胞兄弟のゆきを灰ふ生々名もあらず。その陣歿の迹をも吊る



トアリハ身をもろに傷つ過世の惡報歎きそ何と毎人とぞうふ啼音悼る
白日々の草虫啞つや袖の露乾く。位良人ゆゑとまきドトモ化粧も朝霜
の解く病も候えさる。絶不瀆路ハづくと也かや。心の憂愁ちうくうみど右と
左をりても相譚ぶ。凡人ハあらず。吾脩の為ゆ大塚村のまや。婚烟ハ
せよ。幼なじり二親の許より夫ゆそ。その心ざる精悍く。浮くらむを
一矢うぐ。よふ憲へん人とえつれ。父の憂ゆを明く地小告て。その智を借らん
史実の親の姓名も。その存亡もあらずあり。その陣歿の迹を一も。コ
為小吊するをめぐらす。と尋思ひ。ので告入とあびく。ふ人う死折と窓ふ。小
有一日信乃ハ子舍ふ。翁アミ。独机は臂を倚み。訓聞集を読て。そり瀆路ハ
竊み飲ひく。足を翫ほく。おひあひ。おひんとも。翁ふ忙しく。あひの。おひ瀆
路ハ吐嗟と走る。それ彼の足音。信乃ハもと見ええ。後よあひる
亀條。當下信乃ハ机を搔遣す。起迎んと。つと。亀條ハ隔亮と用ひ
隨小裡面入と。走り躲る。瀆路が背を訴へ。目送り。や。信乃よ和
敷も豫てあひ。糠助阿爺が長死病著。昨け夕いと危く。湯液も咽喉も
下どきと四鄰の人。小今坐らむ。糠助阿爺が長死病著。昨け夕いと危く。湯液も咽喉も
息の内小今一ト。アビ。又お席とり。と。う。そ。花井のゆゑと。ハ酸面師の薬礼を。ど
の。ゆ。秋。アビ。アビ。又お席とり。と。う。そ。花井のゆゑと。ハ酸面師の薬礼を。ど
安否を向し。と。う。アビ。アビ。又お席とり。と。う。そ。花井のゆゑと。ハ酸面師の薬礼を。ど
告え。訪人と。う。アビ。アビ。又お席とり。と。う。そ。花井のゆゑと。ハ酸面師の薬礼を。ど
そ往てかひ。アビ。アビ。又お席とり。と。う。そ。花井のゆゑと。ハ酸面師の薬礼を。ど
糠助。大塚信乃。小對面。そ。う。アビ。アビ。又お席とり。と。う。そ。花井のゆゑと。ハ酸面師の薬礼を。ど

里見八犬傳第三輯卷之一終

